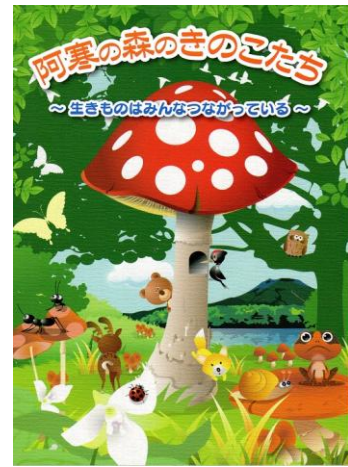


阿寒の森のきのこたち ～生きものはみんなつながっている～

奈良 泰世・礼子

きのこの調査研究を永らく続けておりましたが、平成20年7月4日、阿寒湖温泉のまりむ館にて地元の方々にきのこの話をする機会があり、その年の8月より光の森の入林許可をいただき阿寒の森のきのこを本格的に調査出来ることになりました。

平成24年からは湖北の森も調査区域となり、阿寒湖のまわりを取り囲むように調査出来るようになりました。その頃より前田一步園財団より一般の人達がわかるような、そして森の中で活用できるようなものを考えてほしいと要望され、平成27年度の前田一步園財団自然環境保全活動助成事業に申請し採択をされて、ハンドブックとしてまとめることができました。表紙は阿寒の動植物、きのこなどをイラストであらわし、子供たちにもわかるような解説にして、阿寒湖で見られる水芭蕉やもみじなどで、きのこの発生時期をおおよそ目安として表しました。また、阿寒湖温泉にはアイヌの人達が自然との関係を大切にし、自然の恵みを感謝の気持ちをもって生活をしております。アイヌの人達はきのこをどのように利活用してきたのかを知里真志保博士の文献などで調べたことを載せました。



平成23年からは（一財）前田一步園財団と北海道教育大学付属釧路小学校による自然環境教育共同プロジェクトのメンバーとして参加させていただき、二学年の子供たちと一緒に阿寒の森の中で学習のお手伝いをさせていただいております。



東北海道・阿寒の森は針葉樹・広葉樹がモザイク模様となり、大型哺乳類のヒグマや小さな昆虫など生物多様性を肌で感じる事ができる他とはちがった世界が広がっています。

ハンドブックは釧路管内の小学校・中学校、釧路市立図書館、釧路市博物館、遊学館環境省のエコミュージアムセンターなど道内の自然環境団体に寄贈いたしました。

